



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	妊婦看護職における職業性ストレスおよび自己管理行動とその関連要因〔論文内容及び審査の要旨〕
Author(s)	日野, 真莉絵
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(看護学)
Dissertation Number	甲第16335号
Issue Date	2025-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/94973
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Marie_Hino_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（看護学）

氏名：日野 真莉絵

審査委員	主査	教授	鷺見	尚己
	副査	准教授	近藤	祥子
	副査	教授	矢野	理香

学位論文題名

妊婦看護職における職業性ストレスおよび自己管理行動とその関連要因

当審査は 2025 年 1 月 22 日実施の公開発表にて行われた。（出席者 19 名）

妊婦看護職は、他職種と比較して交代制勤務や夜間勤務、長時間労働、重労働、立ち仕事、抗腫瘍剤や滅菌剤等の化学物質への曝露、感染症患者との接触等などにより、死産や流産、早産、切迫流早産、子宮内発育遅延、先天性胎児奇形、母体の妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病等の周産期異常リスクが有意に高い。しかし、妊婦看護職における労働環境改善や母胎保護制度見直しの必要性が繰り返し訴えられているものの、未だ具体的な解決策は検討されていない。

妊婦による適切な自己管理は、周産期異常リスクを軽減する最も効果的な方法の一つである。特に、危険な環境下で就労する妊婦看護職における自己管理の重要性が強調されている。妊婦看護職は、母胎への健康不安や痛み等の自覚症状がありつつも、看護職に特有の職業性ストレスおよび社会心理的要因は、自己管理を困難にし、異常リスクを上昇させる要因の一つと示唆されている。また、看護職は妊娠期を通して“一看護職”から“妊婦看護職”となった新たな自分としてのアイデンティティを構築し、胎児を優先するという考え方を維持しながら妊娠と仕事を統合していくことが、安全な出産に寄与すると示唆されてきた。しかし、これらの知見は質的研究に留まっており、妊婦看護職における自己管理行動を量的に検証した研究は未だ存在しない。したがって、本研究の目的は、妊婦看護職における職業性ストレスおよび自己管理の実態とその関連要因を検証し、効果的な支援方策を検討するものである。

第 1 章では、妊婦看護職における労働衛生上の課題と自己管理支援の必要性について文献検討した。また、就労妊婦に対する健康保持・異常予防のための介入研究に関する文献レビューを実施し、妊婦看護職に対する効果的な介入支援の手法や内容について検証し、本論文の目的および意義を論じた。

第 2 章では、妊婦看護職における自己管理行動の実態とその関連要因を検証した。妊娠中又は産後の看護職 232 名を対象に質問紙による横断研究を実施した。質問紙では、個人属性、妊娠・出産状況、自己管理行動質問票、労働状況、ソーシャルサポート、Sense of Coherence 等を測定し、単変量および多重回帰分析を用いて分析した。本研究の結果、参加者における自己管理行動の内、“知識とセルフモニタリング”や“異常の予防”に関する項目得点は最も低く、妊婦看護職に対する情報提供や健康教育、およびセルフモニタリング支援の必要性が示された。

第 3 章では、妊婦看護職における自己管理に対する困難さを測定するために、自己管理困難感尺度を開発し、その信頼性と妥当性を検証した。本研究は、第一段階(尺度原案の作成)、第二段階(予備調査)、第三段階(本調査)を経て実施された。結果として、“妊婦であり看護職である闘い”、

“管理方法のわからなさ”，“管理の限界”，“胎児優先の信念”の4下位概念24項目の尺度が開発された．項目分析，探索的因子分析および確証的因子分析の結果，尺度の信頼性と妥当性が確認された．

第4章では，妊娠中の看護職における職業性ストレスレベルとその関連要因の特徴を，非看護職との比較を通して検討することを目的に，1,024名の就労妊婦を対象に質問紙による横断研究を実施した．測定項目には，Brief Job Stress Questionnaire，仕事状況，妊娠状況，自己管理行動質問票等が含まれた．参加者は看護職群と，その他の医療従事者群，フィジカルワーカー群，デスクワーカー群の4群に分類された．4群のストレスレベルをDunnett's test，Chi-squared test等により比較検討し，順序ロジスティック回帰分析によりその関連要因を検討した．有効回答847名の分析の結果，看護職群は他職種群よりも，いずれの妊娠期においてもJob demandが高値，Job controlが低値となり，高ストレス者の割合が高いことが明らかとなり，さらなる支援の必要性が示唆された．また，看護職群の職業性ストレスには，頻回の超過勤務，少ない休憩時間，少ない上司のサポート，低い胎児優先の信念が関連した．特に，少ない休憩時間と低い胎児優先の信念は看護職群のみに認められた関連要因であった．妊婦看護職が職業性ストレスを調整して働くには，超過勤務を回避し，休憩時間を確保しながら，胎児を優先して働くことに向けた支援策の重要性が示唆された．

以上の研究結果から，妊婦看護職の産期異常予防のための自己管理支援策を開発，実装する必要性が示唆された．具体的には，妊婦看護職の高い異常リスクの実態や，勤務時間中における休憩時間の確保および超過勤務回避の必要性，胎児を優先して働くことの重要性等について，適切な知識を付与するための労働健康教育，妊婦看護職の職場におけるセルフモニタリングを促進する重要性も示された．また，妊婦看護職の自己管理実践には病院管理者の理解と協力も重要であることが示唆された．

これを要するに，著者は，他職種と比較して周産期異常リスク自身が高い妊婦看護職の職業性ストレスおよび自己管理の実態とその関連要因を量的に検証し，自己管理支援策の具体的要素を提案するという新知見を得たものであり，臨床現場の看護管理における妊婦看護職の安全な出産および離職予防対策に対して貢献するところ大なるものがある．

よって著者は，北海道大学博士（看護学）の学位を授与される資格あるものと審査委員一同認める．